

1次産業 Primary industry

「大分の野菜畑」ともいわれ、肥沃(ひよく)で広大な土地で育った農作物に彩られる豊後大野市の1次産業。新天地を求める移住者がいる一方で、高齢化による農業従事者の減少や耕作放棄地の増加も進む。この地で描く1次産業の未来とは。活性化の鍵を握る若手リーダーたちが語り合った。



ごほう畑

就農者と地域つなぐ“仲人”を

明るい未来を探りたい

指原 豊後大野市の農業が抱える課題と打開策を探り、どうしたら1次産業の明るい未来が開けるかというキーワードを決めていきたいと思っています。自己紹介をお願いします。

堀 インキュベーションファーム(新規就農者研修事業)の1期生で、ピーマンとスイートピーに取り組んでいます。農業を始めて4年、独立して2年になりました。規模を拡大してピーマンを20㍏、スイートピーを10㍏生産しています。それまで一度も大分に来たことがなく違う職に就いていました。豊後大野市の人を受け入れてもらっているの何か貢献していけたらと思います。

指原 インキュベーションファームを利用された理由は。

堀 独立を考えた時、食や外で働く職が合っているかなと思って。農業者フェアに参加して気になっていた他県のブースに行く予定だったんですが、たまたま豊後大野市の人々が熱心に誘ってくれて。体験してみて、ここでやろうと決めました。

津高 自然栽培で約300種類の作物を作っています。農業や化学肥料を使わず、土の力で作る自然栽培を始めてから15年。当初は両親と一緒にいましたが、両親の畑では化学肥料を使っていたんですね。化学肥料も使わないでできたらいいなと思い、独立しました。

指原 農業や化学肥料を使わないメリットは。

津高 苦味やえぐみはまずないですね。かみやアトピーのお客さんが試食して買ってくれるので、いいものを作りたいと思い、自分で作り方を研究してやってきました。

堀 販売はどうやってされているんですか。

津高 ネットです。関東が主です。

若手リーダー
ピーマン生産者
堀彰太さん

安部 セット販売なんですか。

津高 はい。決まった野菜を入れるのは農家にとって大変なので、その時に取れた野菜を詰めて送ります。料理のできる人は「今日はこれが入っている。面白いな」と言ってくれます。

鈴木 三重県出身で、大分に来て1年になりました。大学のゼミで清川の道の駅と交流があり、インターンシップとして来たのが最初です。農業と関係のない所で育ったので、まず土を歩くことが気持ち良くて、いい所だなと。大阪で一度就職しましたが、あねさん工房でスタッフを募集していると聞き転職しました。最初の印象はいい意味で「何もないな」でしたが、いろいろのものがあると分かって、県外にも知らせたいと思っています。

井上 市の農業振興課にいます。20年ほど前に農業技術員として役場に入ってから、農業一本でやってきました。豊後大野市では約200㍏あった葉タバコが約57㍏になり、葉タバコ畑の約4分の3がなくなりました。中には農業を辞めた人もいます。農業振興を図る上で厳しい時代ですが、方針転換をしながらやっていきたいです。

安部 葉タバコを辞めた人は何に移ったんですか。

井上 多かったのはピーマンとカンショ、サトイモなど。どれも葉タバコほどの栽培面積はないので、遊休農地が増えています。

安部 トキハ本店地下2階のふるさとコーナーにいます。2年前までは干物などの担当していました。今日は農家の人と話せるということで楽しみにしてきました。

アドバイザー
トキハMD統括部長
食品MD課ふるさとバイヤー
安部武洋さん

リタイアする人が多い

指原 豊後大野市の現況を教えてください。

井上 農業センサスによると、豊後大野市で2005(平成17)年の農業就業人口4992人が

10(同22)年には3726人。5年の間に約1600人の減少です。農家は専業農家が1322戸から1308戸になっており、専業はあまり減っていないけれど農業人口が減っています。高齢で自然にリタイアしていく人がかなり多いです。基盤整備した土地でも原野化してしまう所もあります。ただ、県外からの新規参入、企業参入、異業種参入も近年は増えています。インキュベーションは行政だけでなく部会や生産者団体、JA、県などと連携しており、現在は卒業した7戸の方が市内でピーマン農家をしています。新規就農を増やして農業を守ってきたいです。

津高 実際、インキュベーションはやっていけていますか。

堀 補助がなくなった計算でもやっていけるかな。ピーマンだけで、家族2人ならなんとか。ピーマンしか習っていないので、冬作は自分で考えなくてはなりませんが、生計を立てていくのはそんなに難しくないと思います。

津高 ピーマン農家が増えて食っていけないと聞くんですが。

堀 昔は増えたら値段が落ちると言われていたんですが、今はロットをそろえて産地化しないと売っていけないので、ちょっと増えたくらいで値段は左右されないと思います。ピーマンは値段の動きが少なく、1㍏250円くらいで安定しています。高齢化しているので、どんどん増えた方がいいのですが。

津高 友人は大変そうな感じですが。

堀 時季によっても違います。バランスを見ればカバーできないことはないかと。ずっと出し続ければ補填(ほとん)される制度もあります。

土地を貸して欲しくない

指原 農業の就業人口が減っているのはなぜ。

若手リーダー
市農業振興課農業振興係主幹
井上祐昭さん

井上 高齢化でしょう。そしてやっぱり経営が厳しい。安定しないというのもあって辞めていく方が多いでしょうね。

津高 周りに高齢の人が多いため、亡くなる人もいますし、畑が荒れていくのは感じます。

指原 津高さんの所には希望を持って参入してくる若い人もいますよね。

津高 1年に3、4人は自然栽培をやりたいと言ってやっています。全員は受け入れられないので、もともとやっていた仕事を生かして農業をしたらどうかと思い、使用済みのランドセルを再生して財布を作っている人もいます。半分農業、半分得意なことをやっていく感じですが。

指原 農業1本でやるのは大変なことなのでしょう。

津高 うーん、自然栽培であれば難しいと思います。

指原 新規就農者の障壁は。

津高 市内の誰かがかかんでいないと、急に土地を貸してくれないですね。周囲の人が怖がっちゃう。

市場前後の形伝えたい

指原 鈴木さんは6次産業をする中で感じることはありますか。

鈴木 若い子とか自然栽培に興味はあるんですが、実際に作ろうとまでは思わないんじゃないかな。市場の形だけでなく、その前後の形を伝えることができたと思います。

指原 堀さんは大変なことはありましたか。

堀 いろんな所で聞かれるんですが、全部楽しませてもらっている感じです。土地と住む所、町の人との関わりがスムーズにあって、コソツコソ頑張れば誰でもいけるんじゃないかな。豊後大野市は

家と土地を紹介する条件があり、新規で来やすいと思います。地域活性化というのであれば10軒20軒来てもらえるような施策にすればいいんじゃないかな。

津高 やってみると分かんない。

堀 絞って受け入れるより、たくさん来てもらって残る人を増やそう、という考えでやった方が効率はいいのかなと思います。

井上 今のところ豊後大野市のインキュベーションは全員残っています。新規を含めて、現在いる中核的な農業者や若い農業者、後継者をどう支援していくかだと思います。

新規と後継の2本柱で

指原 地元との関わりは気になりますか。

堀 新規就農者向けのどんな本にも、家族の協力と、地域の中に溶け込むことが書いています。僕は知り合いがいなかったんで、どんどん集まりに参加して、自然に入っていました。そういうのが好きじゃなくて帰るパターンはあるのかな。

津高 顔を知ってもらうまでが難しいんですよね。

指原 それぞれ課題と思っているところは。

津高 農業したい若い人を地域にどうつなげるか。地域の人が研修生とかを紹介してくれるといいのかな。

鈴木 田舎のメリット以外に、デメリットも教えてもらえるとうれしい。誰か一緒に連れていってくれるといいな。引越しのあいさつも緊張しましたし、「何でこんな所についてよく聞かれます。地域のひとどうやって接しているか分からなくて。ただ、地域の子どもたちはめっちゃあいさつしてくれるので、つられて言うようになつて。知らない人には声を掛けないように育てられたので、こっちに来てから「すごいな」と感じしました。

堀 「王道」で言うところ、課題は高齢化でしょう。どう増やすかという話で、新規就農者を増加させるのは何か。定住して成功して経済が活性化する他にも、後継者が新しいやり方で頑張っている農家も多いと思います。そういう人が成功するように、新規就農者と後継者の2本柱で活性化していくべき。研修後のフォローを地元の人に頼むとか、そういう形が取れたらスムーズですね。

農地を3カ月間シェア

指原 新規就農を増やすことと、後継者をいかに減らさないか、ですね。

井上 都会とは違う地区の文化や行事が伴うことは多いです。鈴木さんが感じるメリットってどんなことでしょうか。

鈴木 お金って大事。ゼロからでなく、私も毎月給料があるので来られました。若い人は農業の初期費用を捻出するのは難しい。会社を通じて出荷して、流通して反応が返って、給料がもらえるのはありがたいです。

指原 実は最初、新規就農希望者なのに「大丈夫?」「厳しいよ」とネガティブなことを言われるのが驚きました。今思うと、注意してくれていたんだなと。

指原 新規就農者を増やすことと熱意のある若者を増やしていく。その中で仲介する人をつくる、ということが現れてきました。

安部 農村型のコミュニティって実は最先端のコミュニティなのかなという印象を受けました。認めた人しか入れない、というか。新規就農に当たってはコミュニティで支援する仕組みが

必要かなと思います。アメリカではコミュニティが農地を提供して3カ月間シェアするとか、企業が月収を払いながら経営する形もあります。

誰かが入り方を教える

指原 後継の人が続けられない理由は。多いと思います。30、40代の農業者が少ないのは、親世代が農業の一番厳しい時代を経験しているからだだと思います。一方で、定年になってから農業をする場合もあります。農業では70歳も現役。ここだと農地がゼロの人って少ない。農機具もある。始めようと思えばできるんです。

10年20年と農業を守っていくために、たくさんの人に関心を持ってもらいたいです。私は農業に魅力があると思います。

津高 私は土の中にいるのも好きだし、野菜の花を見るのも好き。農業をやりたい人に、魅力を伝えたいです。

指原 誰かが仲介して地域に出ていく方法は。どうでしょう。

津高 「あそこの人なら大丈夫」があれば地域に入れると思います。人間なのでそれぞれの生き方もあるし、気持ちのくみ方もありますが、地域への入り方を誰かが教えてあげたらいいのかなと。それをシステム化、仕組みにできないかな。せっかく来たのに、「あいさつが」とかで帰っちゃったもったいないよね。

堀 スムーズなのは、就農窓口で相談して、「こういう感じならこの人」というふうにつなげてくれること。その人の熱心さで集まりは違うと思います。

指原 行政が熱心に勧めて、地域も積極的に受け入れるという流れですね。

鈴木 地域の人が県外の人に対してどう対応しているか分からないこともあるのかな。新しい子が来たくらいは軽い気持ちで接してくれた方が楽だなと思いました。

指原 県外からの人が増えて地域で輝いていれば、イメージも変わってくるのかなと思いますね。

鈴木 私のように地域外で働いていると、輝いている姿を地域の方に見せられない。なかなか知り合いが増えなくて苦戦しています。

堀 僕は地区のスポーツ大会とか全部参加していました。誰でも参加OKなものも多いですよ。

津高 スポーツ以外でも人をつなげる仕組みがいろいろあるのでは。

「畑を紹介しちゃうわ」

指原 そろそろミライキーワードを設定していきたいましよう。

井上 人をつなげる仕組みや地域コミュニティという部分で、継続する仕組みを求めると、コミュニティが農業を支える、というかな。

津高 そういうコミュニティができれば、つながって農業もやりやすくなるかも。「あつこの畑紹介しちゃうわ」とか。

指原 将来的に目標となるような言葉だと、コミュニティですかね。コミュニティを強くするような仕組みをつくることでいろんな人が長く居ついて農業を続けている。

堀 豊後大野市に来て、農業をしたい人がやっていくかな。

指原 コミュニティでいいかなですか。

井上 異議なし。

指原 ではこれでいこうと思います。ありがとうございました。

はじめた人がある。
つづける人がある。
いづかいは、
こうしてひろがっていくんだ。

ここちよい世の中をめざした、JTの取り組み

■あなたが気づけばマナーは変わる

たばこを吸われる方の喫煙マナー向上のために、「あなたが気づけばマナーは変わる。」というメッセージとともに、ポスター、喫煙所のステッカー等による呼びかけを行っています。

■ひろえば街が好きなになる運動

「ひろう」という体験を通じ、「すてない」気持ちを育てたい。そんな願いから生まれたこの運動は、どなたでも参加できる清掃活動で、全国各地でこれまでに延べ160万人の方々にご参加いただいています。

■分煙コンサルティング

公共施設や商業施設、オフィス等、各施設の特徴や利用される方々のニーズに応じた「分煙コンサルティング」を実施。分煙方法についての知見提供・提案・アドバイスをしています。

吸う人も
吸わない人も
ここちよい世の中へ。